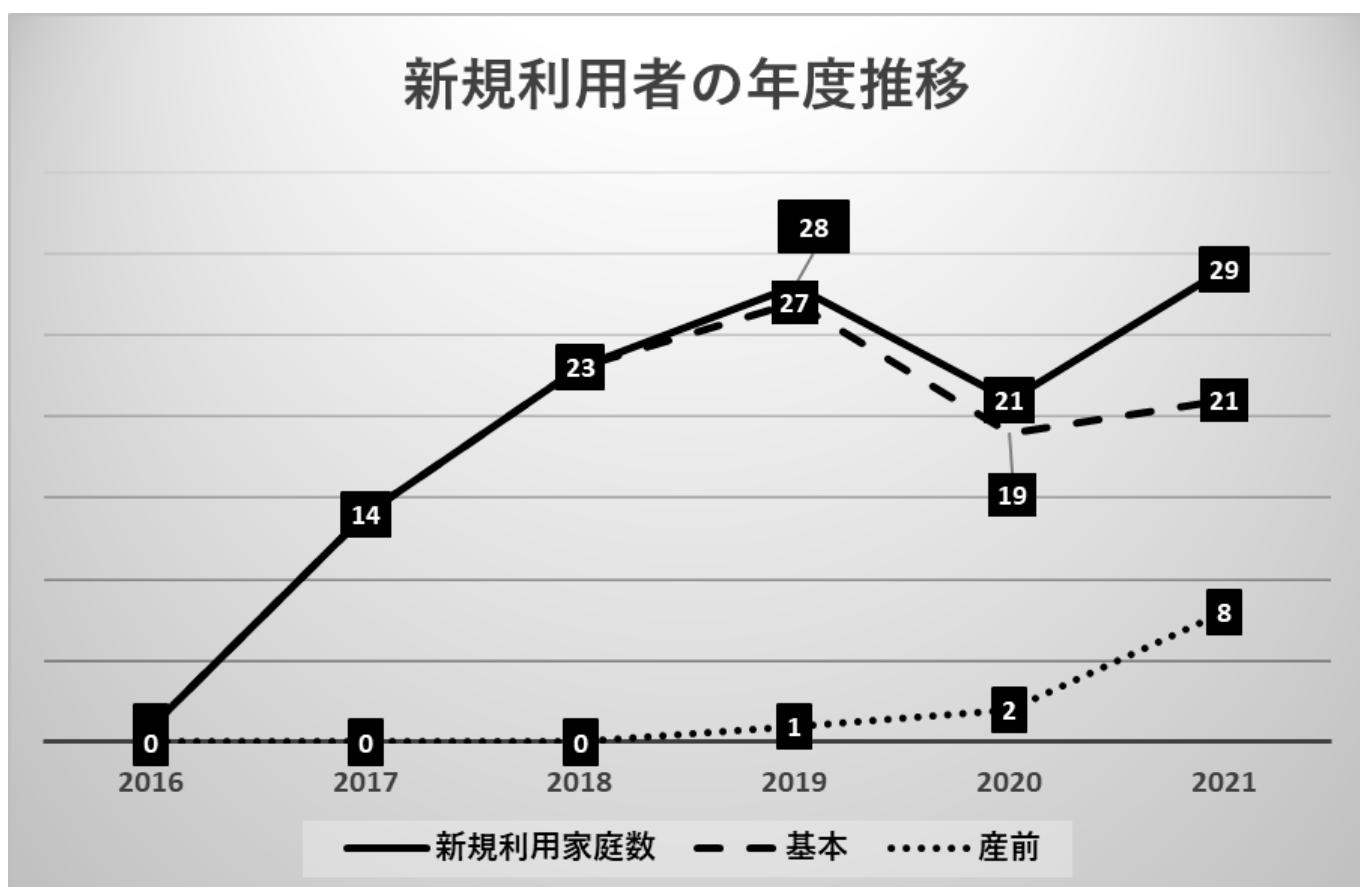


データで見るHS・わくわくの2021年度完全版

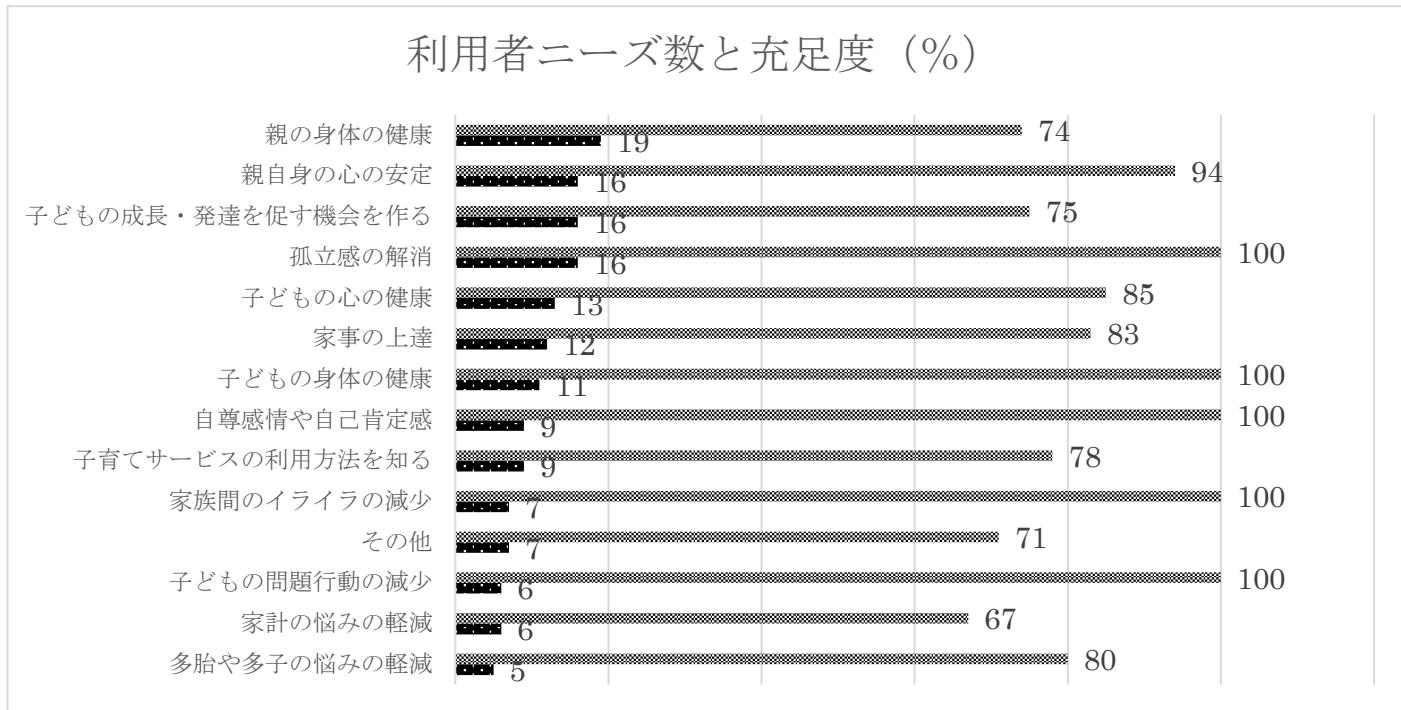
1・訪問活動について

- 2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)、新たに29家庭(うち8家庭は妊婦、7家庭は外国ルーツ、外国ルーツの妊婦が2家庭)を訪問し、41人のお子さんと関わりました。うち3家庭は多胎児家庭です。前年度から継続して訪問した家庭と合わせると36家庭を訪問しました。
- 2021年度登録ホームビジターは43人(うち新規ホームビジターは3人)、オーガナイザーは3人です。HVの年齢は、40代5人、50代18人、60代15人、70代8人です。
- のべ訪問回数はOG、HVあわせて199回です。



- 2018年度に産前HVの研修実施、2019年度から産前の訪問が増え続けています。
- 新規利用者の年齢は、10代1人、20代4人、30代23人、40代1人でした。
新規利用者のお子さんの年齢は、1歳未満が46%、うち6か月末満が32%でした。
- 利用者ニーズ(最終評価まで終わった産前・産後23家庭)で多かったのは・・
親の身体の健康、で19家庭が選択していました。孤立感の解消、親自身の心の安定、成長・発達を促す機会を作る、が同数で16家庭が選択していました。昨年度よりも親の身体的負担を訴えているケースが増えています。
ニーズ充足度を見ると、孤立感100%、親の心の安定94%に対し、親の身体は74%、子どもの成長発達は75%となっています。この大きな理由は、子どもが寝ていて発達を促す遊びができなかったこと、また訪問期間が短く子ども

の成長発達に大きな変化が見られなかったという事例もありました。親の身体についても、腱鞘炎や腰痛など、長時間の治療が必要なケースが多かったことが考えられます。いずれにしても親（母親）は非常に疲れている様子が見て取れます。



●途中終了（ビジター訪問せずに終わった、家族評価までいかなかった）9家庭については、2家庭が不安解消や別の支援につながった（乳児院に預けた、知人の支援が得られた）、3家庭が家庭の事情（産前で申し込んだが早産のために訪問できなかった、日程があわず訪問キャンセル、引っ越し）、4家庭は出産のために産前の訪問が途中で終わったなどの理由がわかっています。

ニーズ充足で「変化なし」でも終了したケースは、多子や家計の悩みは解消できないが受け入れられた、ピンポイントでの利用を希望していたが日程調整がつかなかった、最初のニーズはあったがその後気にならなかった、新生児だったので遊びまで体験できなかった、など、利用者が納得した上で終了でした。

●ホームスタートを知ったきっかけについては・・・

ほとんどが、人から聞いた、と答えています。

保健所の「ゆりかご面接」でチラシを受け取った外国ルーツの妊婦が申込をするケースが増えています。

子ども家庭支援センターや区民ひろばで聞いた、チラシをもらった、というケースも8件と多くなっています。

再度利用も6件と過去最多となりました。

数は少ないものの、SNSやテレビ報道、図書館でチラシを見た、というケースがありました。

2・訪問以外のスキームの活動について

●ビジター向けアンケート

2021年4月にビジター向けアンケート実施、研修ニーズなどを把握しました。

●活動報告会 2021年6月13日

「やさしい日本語」の講師（つくば日本語サポート 井上里鶴さん）にお話をしてもらったほか、利用者とHVが対

談しました。一般的の参加者にはZOOMで参加してもらいました。32名参加（HV13名）。

● HV養成講座

2021年9月～11月に開催、3名の新規ビジター登録　うち1名は里親経験者。

※2022年2月26日、3月6日の二日間で産前HV養成講座を開催予定でしたが、新型コロナ感染拡大のため、延期としました。

● トラスティ会議 8月20日、2月18日

● HV交流研修会

2021年5月、6月、7月、8月、10月、12月、2022年1月、2月、3月（ZOOMにて）HV、OGのべ41名。

9月、11月はホームビジター養成講座のため休止。

8月は豊島区多文化共生推進課・安達課長に講師をお願いし、外国人支援のための研修会としました。

● HSJ関連

2021年5月 HSJ総会、研修会「HV養成講座の運営について」に参加（OG3名）

2021年7月 HS関東エリア協議会 研修会（ZOOM）『愛着形成がむずかしい親子へのホームスタートの支援』

講師 伊豆医療福祉センター小児科／児童精神科医師 藤山 恵先生

グループワーク「予期せぬ出来事が起きた時」（OG2名）

2021年11月 東京HVデー「折り紙実演」や絵本について語る交流会を実施（OG3名、HV4名）

年間を通して、HS東京推進協議会、HSJのファンドレイジング、外国人家庭への対応プロジェクトにかかわりました。

●ひろばでホームスタート

2021年度は区民ひろば南大塚で毎週木曜日に合45回、OG2名参加して開催しました。

●お問合せ対応

他区（北区1件、文京区2件、中野区1件、板橋区1件）からの5件のお問合せに対し、電話等で対応しました。

- ① 北区の方は精神科の治療が必要にもかかわらず育児で多忙で治療が中断し精神不安定になっていました。相談者の了解を得て北区の保健所に連絡し、訪問と見守りをお願いしました。その後、保健所がかかわっていることを確認しました。
- ② 文京区本駒込の方には近くの拠点や居場所（こまじいのうち、カフェ・ハハコ）を紹介しました。
- ③ 文京区大塚の方は、OGが訪問して傾聴し、お子さんとかかわったところ、「私の悩みは小さかった」と言いました。今後も近隣施設を利用しつつ自信をもって子育てしていく様子でした。
- ④ 中野区の方は、夫からの電話で、妻の退院直後から新生児のワンオペ育児になるので来てほしい、とのことでした。状況を聞く限り、ファミリーサポートやシルバー人材のサービスが適当と思い、メールで紹介しました。
- ⑤ 板橋区の方は、他区には訪問できないことを伝え、丁寧にお話を傾聴したところ、納得してくれました。

●SNS等による広報

インスタグラムで情報発信、毎週1回は更新するようにしています。Facebookとの連動もしています。

今後、LINEの公式アカウントを活用する予定です。

2021年12月から、豊島区立図書館の児童書コーナーでホームスタートのチラシを置いてくれることになりました。これには図書館とつながりのあるHVが提案協力してくれました。

5月、とうきょう子育てスイッチ（東京都保健福祉局）の取材を受け、サイトに活動がアップされました。

<https://kosodateswitch.metro.tokyo.lg.jp/article/magazine/94>

7月、津田塾大学フィールドワーク基礎のオンライン授業で、OG荒砥とHVが講演、学生よりインタビューを受けま

した。

8月、文京区まちの情報基地 JIBUN の取材を受け、サイトに活動がアップされました。

<https://jibunmedia.publishers.fm/article/24431/>

『子ども社会研究』Vol27、2021 に HS・わくわくが協力した論文「子育て支援「ホームスタート利用者の変容プロセス」（日本女子大学学術研究院 加藤直子）が掲載されました。

8月、「家庭訪問型子育て支援の実態調査」（東京未来大学こども心理学部 野澤義隆、高崎健康福祉大学人間発達学部 野田敦史）に回答しました。

2022年3月、東京都「こどもスマイルムーブメント」でインタビューを受け、サイトにアップされました。

<https://kodomo-smile.metro.tokyo.lg.jp/kids/tanbou15.html>

● その他のプロジェクト

昨年度に引き続き、地域がつながるプロジェクト（豊島区、WAKUWAKU）の訪問員として HS・わくわく関係者7人が参加しています。そこから1名の利用につながりました。

東京 HS ビジターデー(11月 27 日)



津田塾大学フィールドワーク(7月5日)



活動報告会(6月13日)



ひろばで
ホームス
タート
とインス
タグラム